

3 下總皖一資料展示室と野菊公園(加須市)

加須市民のみんなが聞いている午後6時を知らせるメロディチャイム。夏には「ささの葉 さらさらのきばにゆれる・・・」、秋には「遠い山から吹いて来る 小寒い風に ゆれながら けだかくきよく 匂う花 きれいな野菊 うすむらさきよ」。これらは唱歌『たなばたさま』と『野菊』である。保育の現場では季節の歌や伝統的な唱歌として歌い継がれている。また「ドンとなった はなびだ きれいだな」で始まる『花火』や「かくれんぼするもの よっといで じゃんけんぼんよ あいこでしょ」の『かくれんぼ』の作曲者は埼玉県加須市出身の下總皖一である。

下總は明治31年(1898)に埼玉県加須市砂原(旧大利根町)で生まれ、地元小学校及び埼玉師範学校(現埼玉大学)を卒業。その後東京音楽学校(現東京芸術大学)に進み首席で卒業。その後秋田県や栃木県の高等女学校や師範学校で教鞭をとった。ドイツへ留学を経て、母校の東京芸術大学の教授・音楽部長として、我が国の音楽教育の中心を担った。作曲は童謡の他、合唱曲・器楽曲・協奏曲・校歌・箏や三味線の曲など多岐に渡りその数は2千曲とも3千曲ともいわれている。

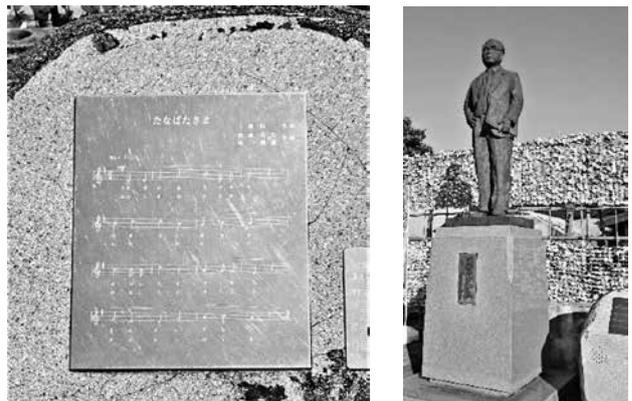
下總皖一資料展示室は、加須市大利根文化・学習センター(アスタホール)内にあり、下總皖一愛用のピアノや生家の復元模型、直筆楽譜、関係書物等多くの資料が展示してある。またアスタホールと道を挟んだ向かい側には、野菊公園が整備されており、歌碑が設置されている。



4 加須市内の下總皖一関連歌碑について

(1) 道の駅「童謡のふる里おとおね」

下總皖一の銅像と「たなばたさま」の歌碑が設置してある。



(2) 加須市豊野橋

中川に架かる豊野橋は、橋の四隅にボタンがあり、押すと「たなばたさま」が流れるメロディ橋だったが、現在は残念ながら機能していない。



7 埼玉県・栃木県・群馬県の旅

(1) 埼玉県 清水かつら (和光市)

宮澤章二や下總皖一の他に埼玉県ゆかりの詩人を挙げてみる。

「おてて つないで のみちをゆけば
みんな かわいい ことりになって
うたをうたえば くつがなる
はれた みそらに くつがなる」

これは清水かつらが作詞した『靴が鳴る』の1番である。幼児がみんなで手をつなぎながら道を歩き、靴音が鳴る情景を、小鳥になるという擬態化表現を含めて描いている。2番では「みんな可愛い うさぎになって はねて踊れば 靴が鳴る」と1番と同じように擬態化を用いている。歌を歌いながらお手々をつないで歩いたり、小鳥になったりうさぎになる擬態化を伴うこの歌は、園児の豊かな表現を育むのに、保育の現場でよく用いられる童謡である。作詞者の清水かつらは、明治31年(1898)東京の深川に生まれた。大正12年(1923)の関東大震災で被災したため、和光市の継母の実家に身を寄せ、その後、市内の白子地区に居を構えた。清水は亡くなるまでの約30年ほどを和光市に住み、童謡詩人として数多くの作品を残した。

代表作「靴が鳴る」「雀の学校」「しかられて」などは園児に歌い継がれて今に至っている。

資料展示室は、和光市立白子コミュニティセンター内にあり、清水が作詞を行ったレコード、編集に携わった絵本や雑誌等、当時の貴重な資料が展示してある。



また、旧居近くの白子橋の欄干には「靴が鳴る」の詩の銅版が、和光市駅南口ロータリーには「みどりのそよ風・靴が鳴る・しかられて」の代表作3編を刻した歌碑が建てられている。



(2) 栃木県 野口雨情 (宇都宮市)

栃木県宇都宮市や小山市方面から通学している学生、また野木町や古河市在住の学生にもぜひ訪問してほしい場所を紹介する。野口雨情旧居である。野口雨情は西条八十、北原白秋と並び、3大童謡詩人の一人とされ、

「シャボン玉 飛んだ 屋根まで飛んだ
屋根まで飛んで こわれて消えた
風 風 吹くな シャボン玉飛ばそ」

の『シャボン玉』や

「からす なぜ鳴くの からすは山に
可愛い七つの 子があるからよ」

の『七つの子』など、だれでも子どもの頃に口ずさんだ童謡を数多く作った。野口雨情は、明治15年(1882)に茨城県北茨城市に生まれ、その後、北海道や福島県いわき市・東京で暮らした

が、最晩年は栃木県宇都宮市鶴田町（旧鹿沼市）に住み、その地で62年の波乱に満ちた人生を閉じた。生誕地である北茨城市には「野口雨情記念館」が、いわき市には「野口雨情記念湯本温泉童謡館」があり、数多くの貴重な資料を見ることができるが、ここ宇都宮市にも人生の終焉を迎えた住居が現存する。木造平屋建て瓦葺の質素な建物には、「野口雨情」の表札がある。また床の間付きの和室、縁側には雨情が活躍した当時の写真等が飾られている。また敷地内には、筆や硯を収めた筆塚、住居の裏山の羽黒神社には「蜀黍畑」の歌碑、住居と鹿沼街道を挟んだ向かい側には、「あの町この町」の歌碑が立つ。



(3) 群馬県 石原和三郎（みどり市）

群馬県太田市や大泉町、邑楽町や館林市方面の学生には、群馬が生んだ童謡詩人山中和三郎の貴重な資料が残る、みどり市の「童謡ふるさと館」を訪ね、山中が作った童謡のあたたかさに触れて欲しい。石原和三郎は、慶応元年（1865）に生まれ大正11年（1922）に没した。石原は皆が口ずさんだことのある「もしもしかめよ かめさんよ」で始まる『うさぎとかめ』、「まさかりかついだきんたろう うまにまたがり おうまの けいこ」で始まる『金太郎』、「うらのはたけで ぼちがなく しょうじきじいさん ほったれば」で始まる『花咲爺』など数多くの作詞を手掛けた。石原の詩は、言文一致（話し言葉に近い言葉）の歌詞であり、この形式はその後日本中に広まった。館内には石原自身の資料の他、童謡の歴史、出版にあたり関係した童謡・唱歌集、今から100年以上前の1900年に製造され現存数の少ないリードオルガン。1931年製造のスタインウェイ社のアップライトピアノが展示され、実際に弾くことができる。また1900年ころ製造されたウィーン式ハンマーアクションピアノも、触れることはできないが展示されている。



童謡ふるさと館が建つ敷地内には「兎と亀」の歌碑が立っている。日本童謡の父と言われる石原の足跡に是非触れて欲しい。



8 結びに

本稿で取り上げた施設は、保育者を目指す学生に是非訪ねていただき、童謡や唱歌を作った先人たちが、どのような人生を歩み、どのような思いや意図で詩を書き、作曲をしたかを感じ取って欲しいと思い、すべて自ら現地を訪問したものであ

り、これはその記録である。

保育現場で歌の指導や遊戯の指導、オペレッタ等の指導を行う際、現地を訪問して感じたこと、体験したことは必ずや役に立ち、子どもの成長に大きく寄与すると信じる。在学中はもとより、保育・教育の場に立った後も時間を見つけて見学に行ってもらいたいと切に願うものである。

各施設所在地等

- 1 宮澤章二記念館
埼玉県羽生市大字弥勒 87
羽生市立三田ヶ谷小学校
TEL：048-565-0008
- 2 下總院一資料展示室と野菊公園
埼玉県加須市旗井 1461-1
大利根文化・学習センター（アスタホール）
TEL：0480-72-1023
- 3 道の駅「童謡のふる里おおとね」
埼玉県加須市佐波 258-1
TEL：0480-72-2111
- 4 豊野橋
埼玉県加須市 北大桑一間口の中川橋梁
- 5 カスリン公園への旧道
埼玉県加須市砂原 711 付近
- 6 栗橋駅西口の歩道歌碑
埼玉県久喜市伊坂 栗橋駅西口歩道
- 7 青葉団地 童謡の小道
埼玉県久喜市青葉 1 丁目 1-2
UR 久喜青葉 団地管理事務所徒歩 3 分
- 8 清水かつら資料展示室
埼玉県和光市白子 2-15-51
白子コミュニティセンター
TEL：048-468-1567
- 9 野口雨情旧居
栃木県宇都宮市鶴田町字長峰 1744 - 28
- 10 童謡ふるさと館
群馬県みどり市東町座間 367-1
TEL：0277-97-3008